

子どもシェルター

レラピリカ

NEWSLETTER

ニュースレター [発行日 2014年1月]

No.01

創刊号

## ご挨拶

🌸 お待たせしました! 「子どもシェルターレラピリカ」の誕生です  
**子どもたちに春風を!**

ようやく、昨年12月24日に「子どもシェルターレラピリカ」(施設名「のんの」)が誕生しました。

全国で9番目になりますが、先輩シェルターに学びながら手探りの1年半…正直言って「難産」でした。しかし、「今晚帰ってご飯を食べ、眠る場所がない」という子どもたちに安心できる場所を提供したい。そして、子どもたちに寄り添いながら自立へのお手伝いをしたい…という「レラピリカ」の心に多くの人と企業が賛同してくださいました。そして多額の寄付とともに、物心両面のご支援、ご協力を沢山いただき、全国で初めて「新築にして自前」の施設を作ることができました。心より感謝申し上げます。早速、2名の子どもたちが「レラピリカ」に入所して新年を迎え、彼女たちにも春が訪れようとしています。「レラピリカ」(美しい風)は、「春風」に限りますね。

子どもは、私たちの希望であり、未来と世界へ羽ばたく可能性に満ちた、かけがえのない存在です。子どもが健やかに伸び伸びと成長できる社会は、大人にとっても安心して生きていける社会に違いありません。子どもが辛い思いをする社会は、大人にとっても辛い社会なのです。そう考えると、子どもシェルターの開設は、私たち大人に課せられた使命といってよいでしょう。

生れたばかりの「レラピリカ」は、財政面が脆弱で「課題山積、前途多難」ですが、「小さく産んで、大きく育てる」の極意どおり、「慌てず、焦らず、しかし確実に」、スタッフ一同、全力を尽くします。

今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



子どもシェルターレラピリカ  
理事長

内田 信也

## 「レラピリカ」開設までの歩み



「子どもシェルター」は、2004年、東京弁護士会の坪井節子弁護士が理事長を務めるカリヨン子どもセンターによって、東京で初めて開設されました。その後、2007年に愛知と神奈川、2009年に岡山、2011年に広島、2012年に福岡と京都、2013年に和歌山で次々と開設されました。

かかる「子どもシェルター」の開設・運営には、各地の弁護士会または弁護士が深く関わっています。「子どもシェルター」が全国各地に続々と開設されるなか、札幌弁護士会においても「子どもシェルター」の重要性・必要性が共通認識となり、子どもの権利委員会を中心として、札幌での開設に向けた準備が進められることになりました。具体的には、2011年11月ころから、札幌市内の児童福祉施設（児童養護施設、自立援助ホーム等）の見学や、設置・運営にかかる留意点・課題等の検討を始めました。2012年3月には、京都で行われた「子どもシェルター」全国ネットワーク会議に参加し、各地の活動・運営状況やそのノウハウについて情報提供を受けました。2012年5月には坪井弁護士を講

師に招いてシンポジウム「つくろう!子どもシェルター ～居場所のない子どもたちのために～」を開催し、この集会在札幌での「キック・オフ」となりました。同年7月には、「子どもシェルター」の運営主体となるNPO法人の設立のために、外部有識者（大学教授、精神科医師、児童福祉施設関係者等）をアドバイザーとする設立準備会を設置し、「子どもシェルター」のあり方、運営資金やスタッフの確保、他の子ども福祉施設との連携等について、議論・検討を重ねました。



副理事長(札幌弁護士会子どもの権利委員会委員長) 大川 哲也



このようにして、2012年10月29日にNPO法人の設立総会が開催され、その後の札幌市による認証を経て、2013年2月14日、「特定非営利活動法人 子どもシェルター レラピリカ」が設立されました。

同NPO法人は、設立直後の同年3月、早速、シンポジウム「もうすぐ誕生!子どもシェルター ～居場所のない子どもたちのために～」を開催しました。特別講演をされた落合恵子氏(クレヨンハウス主宰)が指摘した子どもとの向き合い方・接し方については、私たち理事やスタッフにとっても深く考えさせられるものでした。



その後も、ボランティア研修、各種助成金・寄付金の申請、NPO法人の内部規程類の整備、児童福祉関係団体等関係機関との連携強化などを進めてきました。開設までは課題が山積で、なかでも開設資金をいかに調達するか、ということが大き

な課題でした。この点、主に地元の企業様から協賛を頂戴するほか、市民の方々からも過分なご寄付を頂戴し、開設資金については何とか目処をつけることができました。この場をお借りいたしまして、改めて御礼を申し上げます。



かかる関係各位のご協力のもと、札幌でもついに「子どもシェルター」を開設することができました。開設後は、実際に入所してきた子どもとどう向き合うか、卒業後の出口をどう確保するか、年間1500万円以上にも及ぶ運転資金をどう確保するか、等々、開設時と比べものにならない困難に直面することになると思います。しかし、子どもの笑顔や成長を間近で目にする事ができるという期待感のもと、この新しい取り組みに、理事・スタッフ一丸となって、全力で取り組んでいきたいと思えます。今後とも、ご指導ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 施設紹介

### 「羽ばたく為の場所」

多くの方々のご支援、ご協力を頂きながら、無事に、眺めがよく自然に囲まれた閑静な住宅街にて、子どもシェルターレラピリカ「のんの」を開所する事が出来ました。この場をお借りしまして、皆様に心より感謝申し上げます。

「レラピリカ」とは、アイヌ語で、～美しい風～という意味です。北海道・初の施設として、子ども達に「広い北の大地を風のように自由に駆け抜けて欲しい…」そのような思いが込められています。また、ホーム名も、同様にアイヌ語で「のんの」、意味は❖花❖です。



「のんの」では、衣食住を保障し、安心、安全に生活してもらい、ゆっくり休んで、自立に向けて羽ばたく為の力を蓄える場所であって欲しいです。それぞれが尊重され、羽ばたくまでも色々な壁にぶつかり、悩みつつも、毎日暖かいご飯で栄養を取り、一歩、一歩前に進んで行く。そんな中で、信頼できる大人と出会う。弁護士、スタッフ、ボランティアさん達です。そして、心も身体も回復し、それぞれが自立の時期を迎える。そんな流れを「のんの」の意味である「花」の育つ過程と重ねてみました。様々な花があり、咲く時期も特徴も違う、色も形もです。でも、大切にすると可愛く咲き誇れるのです。そのように、子ども達に寄り添い、向かい合いその子ども達の大切な将来、人生に携わりたいと思います。現実には、私達の周りには、家庭から暴力や放任等によって、安心して生



活できる場所を失った子ども達があります。「今晚帰ってご飯を食べ、眠る場所がない」という子ども達の緊急避難場所として、そういった子ども達の為に「のんの」があるのです。

「のんの」は、新築の建物で、全国的にも初めてです。1階部分には、リビングダイニングキッチン、会議室兼事務室、トイレ及びお風呂、脱衣所があります。2階部分に子ども達の個室のお部屋、トイレがあります。

新しい建物の匂いは、とても落ち着き、とても気持ちの良いものです。どこを見ても綺麗ななので、保つ為にも、掃除などもきちんと行いたいと思います。子ども達が入居した際には、大切に扱う事も約束事の中に入れ、今後長い月日の中で、沢山の子ども達が来て、巣立つ大切な場所なので、出来る限り大切に保持していきます。

お庭もありますが、冬季には雪に覆われていますので、春が待ち遠しく、花や野菜の苗を植え子ども達と育て、可愛い花が咲くのを楽しみにしたいと思います。野菜は、自分達で収穫も調理もし無農薬の美味しさを味わいたいと思います。開設し、これからが本格始動です。日々の積み重ねが何より、自分たちの糧となり、皆様のご理解、ご協力を力にします。今後ともよろしくお願い致します。



# スタッフ紹介

## 「心ひとつに…」

特定非営利活動法人・子どもシェルターレラピリカ「のんの」スタッフの紹介をさせていただきます。

常勤職員 4 名の他、昼間・夜間専門のボランティアの皆さんが 50 名程いらっしゃいます。

ボランティアの方は様々な職歴・職業に就かれている方、女性の方、男性の方、年齢の幅も広く、多くの方にご協力を頂いています。

ボランティアに登録するにあたり 3 日間の研修も受けて頂き、顔合わせの際には、とても熱心で志も高く、「何か自分達にも出来る事はないか」と、レラピリカの活動に賛同して下さり、活動内容に感銘を受けたと涙ぐむ方もいらっしゃいました。そうした沢山の温かい思いの方々と共に思いや心をつにこれから子ども達のサポートをしていきたいと思ひます。

職員として子どもたちの生活支援を中心に自立の支援をするのは、児童養護施設で 16 年、7 年ほどの勤務経験がある者、老人福祉施設で 16 年ほどの勤務経験がある者、人生経験豊富でお母さんの立場にある者など様々な職種経験者が集まりました。その経験を活かし、子ども達に心身共に寄り添い、出来る限りの事をしていきたいです。

生活の中では、美味しい食事作り、気持ちの良い環境作りを心掛けていきたいと思ひます。子ども達には、自分で行うべき事は最低限行ってもらいます。考えるべき事も多々あると思ひますが、時には一緒に頭を悩ませながらも子ども達自身が自分で考え、行動出来る様に、見守る事も大切にしていきたいと思ひます。

職員の私達の他にも沢山の方々が子ども達をサポートしています。理事の方、携わる弁護士さんやボランティアさん、協力して下さる各関係機関の皆さん、そして、各地で、居場所のない子ども達の為に精一杯活動している他地域のシェルターの皆さんです。様々な情報を教えて頂いたり、また教わった所から発展していけるよう取り組んでいきたいと思ひます。本当に困っている子ども達、助けを必要としている子ども達を救える事・自立に向けて、生きる力を蓄えられる様に支援していく事を目標に日々過ごしていきたいと思ひます。

支援を行っていく中で、各関係機関と協力・連携は必要不可欠です。その子どもにとって、どのような方向に進んでいくのが最善の方法か、その子にとってどのような事が合っているのか等を見極める目を養いつつ、柔軟な考えや対応を心掛けています。

どのような子ども達と出会うのか、どのような困難が待ち受けているのか、実際に体験しなければわからない事も沢山ありますが、沢山のサポートしてくれる皆さんがいるので、心強くまた何かあれば相談させて頂き、お力をお借りしたいと思ひます。皆さんの協力して下さる気持ち、応援の気持ちが、沢山の子ども達との出会いに導いてくれると思ひています。

そして、これから問題の山を共に乗り越える心強い仲間として、子ども達と少しずつ歩んでいければと思ひます。今後ともご指導の程よろしくお願ひ致します。

職員一同



A.Mさん



H.Aさん



W.Mさん



I.Hさん



## 寄付・入会のお願い

子どもシェルターの運営には子どもたちの生活費やスタッフの人件費などで年間約1500万円の資金が必要です。しかし、行政から支給される公費だけでは不十分で、皆様からのご寄付を必要としています。

ご寄付をいただいた方には子どもシェルターの活動報告やイベントの案内などをお送りしますので、お振込後、住所、氏名、電話番号、ご寄付いただいた金額をFAXまたはハガキでレラピリカまでお知らせください。皆様からの温かいご支援をお待ちしています。

### ■入会のお願い

レラピリカでは、私たちの活動理念に賛同して入会していただける方を募集しております。

会員には正会員と賛助会員の2種類があります。

入会を希望される方は、「入会希望」と明記のうえ、住所、氏名、電話番号をFAXまたはハガキでレラピリカまでお知らせください。レラピリカより入会申込書をお送りします。

### ■会員の種別

【正会員】 総会で運営方針などについてご意見をいただく会員（個人のみ）

【賛助会員】 主に資金の面から援助していただく会員（個人、団体）

### ■年会費

【正会員】 5万円（別途入会金10万円）

【賛助会員】 個人一口5,000円（一口以上）、団体一口1万円（一口以上）

### 振込先

北洋銀行札幌西支店 普通5170871

特定非営利活動法人 子どもシェルターレラピリカ  
理事長 内田信也

郵便振替口座

加入者名 特定非営利活動法人 子どもシェルターレラピリカ  
口座記号027109 口座番号101160





## ご寄付をいただきました

ご寄付をいただいた企業・団体及び個人の皆様に、心より御礼を申し上げます

ご支援いただいた企業様・団体様をご紹介します(2013年12月末現在)

株式会社アイ・コンセプト

医療法人愛全会

青柳株式会社

株式会社旭ダンケ

医療法人社団明日佳

イオン北海道株式会社

石屋製菓株式会社

岩田地崎建設株式会社

株式会社 AIRDO

SBI 子ども希望財団

オフィス 本間フミ

株式会社カナテック

株式会社カナモト

株式会社カナリヤ

株式会社カノン

加森観光株式会社

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

株式会社キムラ

交洋不動産株式会社

札幌信用金庫

株式会社サッポロドラッグストア

札幌法律援護基金

札幌ポプラライオンズクラブ

新・北海道石炭じん肺訴訟弁護団

タナカメディカルグループ

株式会社テスク

株式会社テンフードサービス

ナラサキ産業株式会社

株式会社ニスコ

ニチドク事務機株式会社

株式会社ニッセンレンエスコート

株式会社ニトリホールディングス

株式会社ネクステップ

株式会社原田

株式会社パイオニアジャパン

株式会社日立物流ダイレックス

株式会社フレッシュ・ネット・北海道

株式会社ベジフルシステム

株式会社北洋銀行

株式会社北陸銀行

北海道オフィス・マシン株式会社

株式会社北海道銀行

一般社団法人北海道 CGC みどりところの基金

北海道振興株式会社

マックスバリュ北海道株式会社

株式会社森哲

株式会社ロイドエステート

ワタショウ株式会社

渡辺食品機械株式会社

株式会社わらく堂

(五十音順、敬称略)

# 羽ばたくための 準備をしていきましょう

広い北の大地を  
風のように  
自由に駆け抜けて  
欲しい

## ●レラピリカに込めた願い

レラピリカとは、アイヌ語で「美しい風」という意味です。  
居場所のない子どもたちが、子どもシェルターで生活する間に  
少しでも生きる力を蓄え、  
子どもシェルターを巣立って行った後は  
広い北の大地を風のように自由に駆け抜けて欲しい、  
そのような願いが込められています。

## 2 声を聞かせて!

詳しい事情をお聞きして、どのような支援ができるか  
検討します。  
入所できるのは原則20歳未満の女子で、入所する  
際は基本的な約束ごとを理解していただきます。  
子どもと面談して、入所の意思を確認します。  
入所が難しい場合でも、相談にのったり助言をした  
りすることもできます。他の専門機関への橋渡しを  
することができる場合もあります。

## 4 そして、大空へ…

次の生活の場所が見つかったら、レラピリカは卒業  
です(利用期間は2週間から2か月くらいを目安とし  
ています)。  
卒業した後も、困ったことや悩みごとがあればいつ  
でも子ども担当弁護士に相談してください。

卒業後も  
困ったことや  
悩み事があれば  
いつでも  
相談できます

## 1 翼が疲れたら…

居場所のない子どもや相談を受けた大人・機関は、  
レラピリカに電話してください。

電話番号

011-272-3125

## 3 ようこそ、 レラピリカへ!

利用料(食費や宿泊費など)は無料です。  
ゆっくり休んで、自立に向けて羽ばたくための力を蓄  
えましょう。  
子ども一人ひとりに子ども担当弁護士がつき、法的  
な支援や親権者などとの交渉を行います。  
家庭への復帰、一人暮らし、住み込み就労、自立援助  
ホームなど、次の生活の場所を一緒に探します。

特定非営利活動法人 子どもシェルター レラピリカ

〒060-0042

札幌市中央区大通西12丁目北海道高等学校教職員センター5階

北海道合同法律事務所内

電話:011-272-3125 FAX:011-272-3126

ホームページアドレス <http://rera-pirka.jp/>

子どもシェルター  
レラピリカ

NEWSLETTER

ニュースレター

No. 01

創刊号